

## 会議録

会議の名称	男女平等参画推進委員会 平成21年度 第14回
開催日時	平成22年1月12日（火曜日） 午後7時から9時まで
開催場所	インゲビル第4会議室
出席者	委員：池田委員、青木委員、虎頭委員、寺内親弘、高木委員、角田委員 富田委員、北條委員、渡辺委員、西山委員 欠席：大野委員、中村委員 事務局：飯島課長、藤巻係長、貫井主任
議題	1 第13回男女平等参画推進委員会会議録の確認について 2 平成20年度西東京市男女平等参画推進計画実績評価の確定及び西東京市第1次男女平等参画推進計画「5ヵ年総評価」のまとめの確定について 3 西東京市第2次男女平等参画推進計画の評価方法について 4 その他
会議資料の名称	1 第13回西東京市男女平等参画推進委員会会議録（案） 2 西東京市第1次男女平等参画推進計画実績5ヵ年総評価報告書（案） 3 西東京生涯学習連絡調整会議設置要領及び男女平等推進会議設置要綱 4 男女平等参画推進計画実施評価シ - トイメ - ジ図
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
会議内容 事務局説明	<p>事務局：</p> <p>本日は5年間評価まとめと今後の評価方法の最終確認の2点が大きな議題となると理解する。また、報告として組織体制図改正の資料をご覧いただきたい。平成20年4月「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が施行されたことを受け昨年9月の市議会において、組織条例の一部を改正する条例を提案し、平成22年4月から組織改正がある。経緯としてその中に地方公共団体の長がスポーツ・文化に関する事務を管理執行することができることあり、市局が事務の執行を一元管理するのが望ましいという議論がなされ、文化振興条例が9月に制定され、組織改正に至った。従って男女平等推進係は、企画政策課が所管していた事業も行う市民活動推進係とともに、協働コミュニティ課に属するようになる。質問があれば伺いたい。</p> <p>開会</p> <p>1 第13回男女平等推進センター企画運営委員会会議録の確認について</p>

委員長：

第13回会議録について訂正等ないか。

委員：

会議録5ページの上から26行目から34行目について「小冊子の作成・配布があった時に、何処にどのような冊子を配るのか、あるいは、また作成は難しくても冊子を作る企画をすとか作成をする手筈をすとかありますよね。それに対してお金が付く付かないという問題がありますから、今年度作成は難しいというのが出てくるかもしれませんが、現状だと成果目標が、市民一人ひとりが男女平等について理解するという事で、未実施で、しかし予算要求したという形で出てきている。しかし、そういうところが抽象的で漠然としている。」に訂正願う。

委員：

会議録3ページの「まとめしてみる」を「まとめとしてみる」に訂正願う。

事務局：

同じ行の委員名が特定される記述を委員に訂正する。

委員長：

他になければ、第13回会議録を承認とする。

## 2 平成20年度西東京市男女平等参画推進計画実績評価の確定及び西東京市第1次男女平等参画推進計画「5ヵ年総評価」のまとめについて

委員長：

では、平成20年度西東京市男女平等参画推進計画実績評価の確定及び西東京市第1次男女平等参画推進計画「5ヵ年総評価」の最終確認に進む。

事務局：

訂正追加箇所について、アンダーラインを引いたので読み上げる。

委員長：

以上を訂正追加する。他にあるか。

委員：

表の割合について、四捨五入により端数が出る。100%にするよう調整は必要か。

各委員：

協議

委員長：

では、欄外に四捨五入のため端数が生じ100%にならない旨の注釈を入れることとする。他にあるか。

委員：

「学び」の評価について、各課名が表示されているがいかがか。

委員：

他の領域に合わせ、課名を削除してよい。

委員長：

では課名を削除する。他にあるか、なければ以上を訂正追加し承認する。

### 3 西東京市第2次男女平等参画推進計画の評価方法について

委員長：

西東京市第2次男女平等参画推進計画の評価方法に入る。事務局資料について説明願う。

事務局：

資料に「西東京生涯学習連絡調整会議設置要領」がある。現在、計画について事務局と所管課が書面でのみ、やり取りをし、内容を委員会で評価する形式となっているが、これを参考に課長級を委員とし計画の実施および総合調整検討会議を設けることにより、庁内において各計画の評価の中身を相互にチェックし合える体制が取れる。平成22年度（平成21年度評価）以降庁内で整備し、体制を強化していきたい。もちろん現在ある部長級を委員組織とした「西東京市男女平等推進会議設置要綱」も活用できるが、参考に「西東京生涯学習連絡調整会議設置要領」を提示した。

本題の平成21年度評価方法について、前回委員会のまとめとしてイメージ図「男女平等参画推進計画実施評価シート」を作成した。これは、前評価表の各課記載項目として「1.成果目標」「2.執行状況」「3.達成成果」「4.課題」「5.担当課事業評価」の5項目あったところを、「1.事業目標又は具体的な取組み」「2.執行状況・成果等」「3.評価と課題」の3項目にし、大きな括りにした。次に具体的に評価シートを参考願いたい。1.事業目標又は取組みを具体的に掲げることにより、当年度の目標、取組みが明確になり、2.執行状況・成果についても、分かりやすく明記することができる。以前の評価表より、具体的でわかりやすくなる。参考とされたい。

委員長：

前会議で、評価表を分かりやすく簡素化し、担当課および評価する側も記載しやすい形式にするという協議中、閉会した。事務局のまとめを参考に、引き続き協議したい。意見はないか。

事務局：

他の計画を参考にを見た。例えば具体的な取組みだけを書いて、計画期間の実施状況と評価を記載し、今後については継続・現状維持等単語だけ記載のある計画があった。見やすいが今後どのように進めるか漠然とし、鮮明さに欠ける。男女平等参画推進計画は他の計画に比べ、かなり丁寧な評価表になっている。

委員：

前会議で分かりやすく簡素化するなど共通認識はあるが、あまり簡素化し、男女平等の意識改革を進める観点から無理な数字化や、費用対効果ばかり求めるような評価になるのはいかがかと考える。しかし大枠、各課の記載項目を5項目から3項目にするのは賛成である。ひとつ質問がある。1.事業目標又は具体的な取組みについては次元が違うことになると感じる。ここは「1.事業の具体的な目標」を記載し、次にその目標に対し、実際の取組内容を記載するのが、「2.執行状況」になると思う。そして各課の「3.評価」を記載すればすっきりする。

委員長：

他にあるか。

委員：

各課の記載項目を3つの括りにすることは、よい印象を持つ。各項目の表現方法は検討協議する必要があるが、基本的にはシンプルに「1.事業目標」で「2.事業評価（目標に対する執行状況を含めた評価）」「3.次年度の課題（1年を経過して到達したものしないもの）」の3つになる。また、まさに各課にこのような雛形を作成し、イメージを示し説明しながら、記載してもらう方法がよい。とても参考になる。

委員長：

他にあるか。

委員：

具体的なイメージとして「1.事業目標」に例えばイベントを5回すると書き「2.執行状況」として3回しかできなかった事実だけ客観的に記載して「3.事業評価」に3回しか執行できなかったが評判がよかったなど評価を書き「4.次年度の課題」として次年度は目標の5回にするよう努力すると書く。4つの項目がよい。もちろん2と3を一緒にすれば委員の提案でよい。

委員長：

他にないか。

委員：

「1.事業目標」に取組みを入れ「1.事業目標又は具体的な取組み」がよい。

委員長：

かっこ書きで表すのも可能ではないか。

委員：

私は委員に賛成である。各課の記載項目を3つの括りにするとすっきりする。「1.事業目標又は具体的な取組み」については各課で書く時迷うと思うので、きちんとして雛形を示して、目標をはっきり記載させるのが、重要だと思う。ここは「1.具体的な事業

目標」がよい。「2.事業評価」については、評価だけになると執行状況がわからないし、また成果という表現だと曖昧になるので、「2.執行状況・事業評価」がよい。そして「3.次年度課題」がよい。

委員：

基本的に委員の意見に賛成です。事業目標だけだと抽象的なので「1.今年度の具体的な取組み」「2.執行状況・評価」「3.次年度の課題」プラス雛形の添付がよい。

委員長：

「1.事業目標の具体的な目標」は抽象的ということで、ここは事業の意図する目標を書くのか、目標とする事業を書くのか、事業目標が今年度の具体的な取組みの意味を含めて使えるか。

委員：

事業目標となると人により解釈にばらつきが生じる。「1.今年度の具体的な取組み」がよい。

委員：

先程委員長の発言の「事業目標が今年度の具体的な取組みの意味を含めて使えるか？」について、事務局の意見を伺いたい。取組みだけ記載し、目標がないというのはいりうるか。

事務局：

可能性はある。

委員：

いずれにしても取組みについては執行状況のところで記載されるので、事業目標を記載してもらおうほうがよい。確かに目標だと取組みより漠然とするが、例えば「市民全体向けの就労支援」の事業は直接「女性に対する就労支援」と取組みに記載してなくても、現在は間接的に女性に対する支援につながれば評価している。そういう事業については、目標の方が記載しやすいのではないか。

委員：

今の話だと各課が年度最後、全部記載するようだ。現実的に可能かは別として、わたしのイメージでは、年度当初に事業目標を立て、年度最後に執行状況と今後の課題の評価を記載いただくイメージだがいかがか。

委員長：

計画は先に出してもらおう。委員の発言の「取組みについては執行状況のところで記載される」についてだが、執行状況で記載されたものが、実際に計画していたかどうか曖昧になる。やはり事業が前提としてあり、それを受けての執行状況になると思う。ここは事業計画および具体的な取組みになるほうがよい。

委員：

いや計画については、すでに第2次男女平等推進計画で施策内容の中に具体的な主な取組みも含めて計画内容が決まっている。したがってここは具体的な事業目標になると思うがいかがか。

委員：

計画はあるが、予算がついた段階で担当課として現実的に何をするかになる。

委員長：

私の提案は、担当課としての事業計画という意味だが、表現として曖昧であれば、「1.具体的な事業および取組み」でもよい。

事務局：

前会議の議論のなかでも事業目標と課題や取組みについてのイメージだが、年度内執行という記載があり、各課が実際に計画を達成させるために、どういった手筈を取るのが、鍵になるのではないか。

委員：

各課が取組みとして具体的な計画を立てたとき、全体の工程が見えればよいが、単年度や複数年度で計画するものがある。そういう場合、記載方法として21年度中に執行する（検討中）などの表現になる。

事務局：

雛形を作成するとき、具体的な取組みについて、目標年度や数値目標がある場合は、明確な指示を出せばでてくる。他にいくつかのパターンがあり、この評価表だけでは括りきれない部分が出てくる。各課、取組みのスピードが違うのは仕方ない。今後、職員がいかに、書きやすくなるよう仕掛けるかが重要になる。

委員：

皆さん意見があるが、共通しているのは、いかに具体的なものを記載してもらうため、表現をどうしたらよいかになる。雛形があればかなり修正されると考える。

委員長：

意見が2つある。一つは委員提案の事業評価のなかに執行状況を含ませ、最後は次年度の課題に特化した方がよいという意見。もう一つは執行状況を客観的にどういう形でできたかを記載してもらい、最後に今年度の事業評価と課題を記載するという意見である。

委員：

「2.事業評価・執行状況」の委員の提案に変更する。あと委員の意見のとおり、一番左の項目については年度当初に記載されていれば問題ないが、同時期に一括して記載されるのか伺いたい。

事務局：

今までの成果目標の立て方は、漠然としている。もう少し、仕掛けを変えることで鮮明になるはず。また、「3.評価と課題」を課題のみに特化することは、評価がしやすくなると感じる。実際計画事業について、それぞれ予算の問題があり、基本的に各課方向性を年度当初に既に持っているはず。雛形を活用すれば、評価する側もされる側も評価しやすく整理される。実際庁内計画は14本あり、それぞれを評価するが、各課から評価シートを一本にならないか意見がある。大きく目標が同じであっても、各計画で求めている結果が違うので、それぞれ記載するようになる。実際書きやすいシートとそうでないシートがある。

委員：

皆さんの意見と変わりはない。「1.具体的な事業又は取組み」「2.執行状況と事業評価」「3.次年度の課題」にして、具体的にどういう事業をめざしてそれに対してどういう結果が得られたか、また次年度をどうするか、という具体的な流れを補足すればよい。

委員：

委員がまとめた内容が共通認識になる。

委員：

具体的な取組みを具体的な目標に置き換えた方がよい。

各委員：

協議

委員長：

どちらにしても1については各担当課の施策に合わせて、事業名を記載してもよく、具体的な事業と具体的な取組みになり、「1.具体的な事業又は取組み」「2.執行状況および評価」「3.次年度の課題」になる。そしてサンプルで指示する。

事務局：

イメージが固まったので、雛形を作成する。

#### 4 その他

委員長：

議題は終わる。他にあるか。

事務局：

答申について、委員長、副委員長と日程調整する。

委員長：

次回議題は、評価方法の確定と、次年度について、および男女平等推進条例の策定に向けた検討について意見を持ち寄る。

次回委員会 平成22年2月10日（水曜日）午後7時～9時 イングビル3階第4会議室